

夢窓幼稚園通信第43号

2020年 10月 30日

園庭も 野山も、葉っぱが次々と色づいていきます。
子どもたちの明るい声が とても やわらかく、そして生きいきしています。
春を 夏を 秋を 越し、ゆたかに実った言葉なのでしょう！

「～ しょう！」と友だちを誘う声が、仲間の深さを話っています。
赤バッチさんが遊んでいた三輪車がとけると、横にいた青バッチ
さんが「だいしょうぶか？」と、自分の乗っていた自転車から降りて助け
起そうとしていました。

「みてみて！」「みてみてー！」…と、新しいくつや服を詳しい説明つきで
教えてくれたり、速い走りや大鼓橋の雲梯渡りができるようになった
のを見せてくれます。

さらにすごいのは、周りにいる友だちが「かっこいいなあ」とか「よくできたな
はい、めっちゃはい！」と言ひめたり憧れたりを自然にできるのです。

風がさくらの木を揺って、そんな子どもたちの上に祝福しているように
葉っぱを落としました。

空を見上げ 青い空と おひさまと 行く雲は、この穏やかで ゆっくり
ゆったりした秋の日々の中で、一人ひとりが それぞれらしく過せますように！と
祈りました。

まもなく冷たい風が吹く季節がやってきますが、子どもたちは 新たなほこ
したり、自分たちが おひさまのようになって お互いに あたたかな空気を作り
出していくことでしょう。

11月の後半からは、冬を迎える用意、そしてクリスマスに向けてのよろこびの
準備が始まります。

変化する季節のドラマの中を、共に うれしく過していければと思っています。

園長 外光 泰雄

魂の陽光の中で 思考の果実が 豊かに実を結ぶ。
すべての感情が 自己意識の確かさに変わる。
喜びにみちて 霊が目覚める秋を感じる。
冬が私の中で 魂の夏に変わる。

ハロウィンの夕べ『魂のこよみ』10月(4)